平成24年度第3回石狩海浜植物保護センター運営委員会会議録

◇日時：平成24年12月21日（金）13時30分～

◇会場：石狩海浜植物保護センター

◇出席：石山優子、瀬野一郎（副会長）、北條静香、松島肇、安田秀子（会長）、萬谷優子
事務局：藤岡修一（センター長）、内藤華子（係長）

◇傍聴者：2名

◇議題

1. 平成24年度事業中間報告について
2. 弁天・親船地区の海浜植物等保護地区指定について
3. 次年度事業について
4. その他

◇資料

1. 平成24年度事業中間報告について
2. 弁天・親船地区の海浜植物等保護地区指定について
3. 平成25年度事業計画案
4. 石狩市海浜植物等保護条例一部改正について

◇議事

【事務局】 （資料1説明）

【北 條】 9/29自然教室について、参加者が定員よりかなり少ない。昨年も同様のテーマで行っていたと思うが、昨年はどうだったか。また、少ない理由はどのように考えるか。

【事務局】 昨年も参加者数は定員の半分強と他に比べて少なかった。この時期は、石狩市内の子ども向け行事と重なることが多い。テーマは、植物の少なくなった時期でも可能なものを選んでいく。

【石 山】 行事参加者数のリピーター等の内訳は把握されているか。また、行事の宣伝等を行うために、名簿管理はされているのか。

【事務局】 リピーターの内訳は、昨年度の名簿で照らし合わせればできるが、労力の問題から行っていない。過去には行事案内の送付を試みたこともあったが、発送の手間と得られる効果が少なかったこと等により、現在は行っていない。名簿に基づき必要に応じて行事案内等を送ることは可能。ただし、名簿を外部へ出すことはできない。

【北 條】 夏休み自然教室に関わった立場で補足する。自身が関わった日は、リピーターが多かった印象。海水浴の合間や、学校配布のちらし、本州からの方等もい

た。この教室は、継続すべきと考える。

【安 田】 無料で十分なクラフトができる場所は近隣にはないと参加者意見もあった。周知され、活用されている印象。

【萬 谷】 団体利用が増えた印象。ビジターセンターよりも来館者は少ないのか。

【事務局】 ビジターセンターとの比較は近年行っていないが、過去の統計から、現在では2割程度と考えている。

【松 島】 ビジターセンターは、時期を問わず駐車場があり、車を停めて散策できる場所もある。保護センターは海水浴場時期になれば駐車場が限られ、車での利用がしにくくなり、散策も観察園の限られた範囲である。ビジターセンター並みに来館者を増やしていくのであれば、こういった部分を改善する必要がある。

【瀬 野】 観光協会で貸し出し自転車を設置している。これを保護センターにも設置するなど、本町エリア全体をつなぐようなくみが必要。

【全 員】 観光協会等と連携により実現されたい。

2. 弁天・親船地区の海浜植物等保護地区指定について

【事務局】 先の運営委員会でも議案とした、弁天地区、親船地区の海浜植物等保護地区指定に係り、現在パブリックコメント実施中であり、石狩市環境審議会に諮問中である。保護地区指定にあたっては、資料4のとおり、石狩市海浜植物等保護条例の一部改正を予定している。河口地区、聚富地区については従来の規制とし、新たに指定の弁天、親船地区は、若干緩和した基準で規制していくことを予定している。

具体的には、第2条で海浜植物等保護地区の中に2つのカテゴリーを設けること、第4条の中に新たに2項を設け、3号で「植生の維持に影響を及ぼす植物の採集」を加えることとし、地域事情に対応した形としたい。1/4まで実施のパブリックコメントで得た市民の意見を踏まえ、環境審議会へフィードバックし、1月末に答申をいただく予定。その後条例改正案を議会へ提出し、3月議会で改正、その後告示し、来年7月からの施行を検討している。今回の資料としてご覧頂いている条例改正案は、正式に答申のあったものではなく、あくまでも現段階の案であることを理解願う。

補足として、今回の保護地区指定区域以外へも、今後、管理者と協議しながら拡大を図ることを検討している。ただ、現状では石狩市ですべて管理するのは困難であるため、2年くらいは保護地区難しいと考えるが、将来的には指定の方向で考えている。

【安 田】 現状はパブリックコメント実施中であることと、環境審議会へ諮問中であるということか。

【事務局】 そうだ。ただ、条例改正案については、諮問段階では提示していない。前回の環境審議会では、弁天、親船地区の禁止行為として植物の採取のうち「軽微なものを除く」という表現について指摘を受けた。「除く」とすると、採取してもよい、と解釈されかねないとの指摘だった。今回の案では、第4条に新たに2項を設け、禁止行為として植物の採取を含む形に表現を改めた。

今回の案は、次回環境審議会の前に、委員さんに送付して確認をしていたたく予定。委員による確認の上、環境審議会より答申を受けることになる。

【安 田】 環境審議会からの意見のとおり、「軽微な採取は除く」ではなく、今回の資料4のように、禁止行為として植物の採取を列記する表現のほうが、適切と思う。ただ、「植生の維持に影響を及ぼす」の程度を示す必要はないか。例の記述はできないか。

【事務局】 条例の中での定量的な表現は難しい。センターでパンフレットを配ったり、監視員が指導をする中で、具体的な事例を挙げていくことになる。

【松 島】 個人で少しの採取が多人数で行えば、消失につながるので、画一的な基準では対応できない可能性もある。

【事務局】 何年間かスパンでモニタリングして、必要あれば、その段階で禁止行為を改正するなどの対応が必要、という意見も環境審議会に出ていた。検討したい。

【北 條】 監視員の配置はどのようになるのか。

【事務局】 現在2名体制で4月から10月まで配置しているが、交代制なので1日1名が従事している。今年から週1回程度聚富地区を監視しているが車両の乗り入れはほとんどない状態なので、滞在時間は短い。河口地区の監視時は、灯台横の堤防上を起点として（全体を見渡せるため）、必要に応じて海側や、河口先端へ監視に向いている。今後、弁天、親船地区の指定にともない、人員を増やす予定はなく、現在の体制で、河口地区の監視頻度を減らして、弁天、親船地区を見に行くという形態になる予定。

今回の地区指定の主旨は、車の乗り入れを禁止することなので、それを第一に実施していくことになる。

【安 田】 市外からの来訪者への周知も重要と考える。

- 【北 條】 釣り人や貝を採取する方、漁師さんたちへも、車で乗入れる方がいらっしやるので、わかりやすく周知することが大切と考える。
地元へは、回覧等も検討いただきたい。
- 【事務局】 周知期間として3カ月あるので、広報等での周知も図っていく。
- 【安 田】 実践で課題が出てくると思うので、その都度対応しながら進めていくということ、お願いしたい。
- 【事務局】 施行後の現地での状況については、運営委員会でも報告していく。条例改正案については、その他意見があれば1月上旬までをお願いしたい。
- 【瀬 野】 別件になるが、石狩湾新港東埠頭の東側に砂が付いて、夏場はレジャー利用者があふれている状態である。管理体制等検討する必要がある。
- 【松 島】 バギー車の接触や遊泳時に溺れるなどの事故が毎年発生するとともに、ごみの放置等の問題もある。これらの課題は、保護センターの所掌を超えるが、管理者等との協議の場において、課題として提示されたい。
また、保護区指定に伴い、バギー車走行の場所を変えて他地域の植生破壊をもたらす可能性もある。そういったことへも注意を払う必要がある。
- 【事務局】 管理者らから構成する石狩浜環境保全連絡会議等において、提示していきたい。

3. 次年度事業について

【事務局】 (資料3説明)

1-1)の「ハマナス再生プロジェクト」については、市民団体との連携により進めていきたい。事業規模については、現在は予算要求段階であり、今後変更する可能性があることをご承知いただきたい。

1-2)の「いしかり海と海辺の自然学校」は、今年度行った「いしかり海の『環』発見事業」の発展形となり、事業名を変更している。現在助成金申請中。助成金が決定しなかった場合は形を変えて実施することで検討している。

1-3)の「いしかり海辺ファンクラブ協働事業」は、今年度作成したパンフレットがほとんどなくなったので、増刷と、配布時のPRとしてのぼり等の作成を検討している。

それ以降継続事業(資料読み上げ)

2の保護保全対策については、

- 【松 島】 今年度の海の映像撮影は、来年は実施しないのか。
- 【事務局】 現在 DVD にまとめており、今年度で終了。来年度からは、自然教室等で映像を活用していく。
- 【北 條】 ハマナス再生プロジェクトの中で、製品の開発等の話があったが、進行状況はいかがか。
- 【事務局】 農水産課の6次産業プロジェクトとして進行中。2月にあるイベントで、ハマナスから採った酵母を用いたパンなどを発表すると聞いている。
- 【安 田】 整地の方法は？
- 【事務局】 チェーンソーで低木を伐採した後、ブルなどで表層土を剥ぎ取る。剥ぎ取った土は、根を覗いて表層土は築山にする。10cm程度の深さを行う。周囲1m程度は防風のため残し、中に点在するハマナス群落は残す。
- 【安 田】 既存の植生を残しながら少しずつ行えないか。
- 【松 島】 一度にすべて行うほうが効率はよいと思われる。
- 【事務局】 一度にすべて行うほうが効率はよいが、予算的な部分に左右される。7千平米のうち、半分の面積になることもありうる。デザインについては、北大の研究室主導でお願いすることを検討している。
- 【松 島】 センターの意向に協力していきたい。造園学会等に持ちかけ、ワークショップによりデザインを行っていく計画を持っている。また、弁天地区全体の利活用をどうするかなどについても、ワークショップで検討していければベストと考えている。
- 【瀬 野】 保護センターから弁天歴史公園へ向かう散策路についても、有効活用できるような整備が必要と思う。
- 【事務局】 了解。
- 【萬 谷】 伐採後の材料は活用できないか。
- 【事務局】 可能な限りで活用を検討したい。

【安 田】 ハマナス再生プロジェクトについては、大学や市民団体等の協力得ながらよい形で進められることを期待する。

【北 條】 1－2)の海辺ファンクラブ協働事業について、今年の活動として、石狩海岸カントリーコード（パンフレット）配布の成果は？

【事務局】 現地での配布では、大半の方が受け取ってくれたが、効果のほどはわからない。保護センターでは学校利用の際に配布したり、公共施設等へ配布した。また、関係行政機関による保全への理解促進に貢献した印象。

【北 條】 了解。

4. その他

【事務局】 2/2に海の生き物講座を予定。配布のちらしで確認願う。今年度の運営委員会は今回で最後となる。次回は来年度の早い時期で予定。

以上